令和8年度　川西町議会　行政視察報告書(1日目)

県外視察研修

提案者名　副議長　齋藤麻由　　所属　川西町議会

視察議員

副議長/齋藤麻由	厚生文教委員長/安達憲太郎
総務建設委員長/福山臣尾	阪本学
堀格	芝和也

1. 視察日時　令和8年10月19日　13：30～16：30

2. 視察先　　北方町立義務教育学校北学園

3. 視察内容　義務教育学校における小中一貫教育について

4. 視察目的　本町の教育環境の充実と将来的な学校のあり方を検討するため。

5. 調査概要

- 北方町立北学園は3つの小学校と１つの中学校を再編し義務教育学校として令和5年4月に開校。
- 1年生から9年生までが同一校舎で学び、9年間を通した一貫教育を推進している。
- 令和6年度には不登校児童生徒の多様な学びを保障する分教室「オンリー1」を開設。
- 「独自のカリキュラム」「幼保小架け橋プロジェクト」を作成し、幼保小中一貫15年間教育をスタート。

6. 所見

- 今回の視察を通して、学校編成を単なる施設の統合にとどめず、9年間、15年間を通した教育内容の充実に繋げていること、小学校から中学校への進学に伴う環境変化を抑え、教育間の情報共有を重視し、継続的な児童生徒支援に繋げている点が参考になった。
- 不登校支援のための多様な学びを保障する分教室「オンリー1」を開設し、今後の学校教育、多様性に合わせた学校教育を考える大きな学びとなった。

7. 川西町への示唆

- 本町においても、中学校施設の老朽化や児童生徒数の減少が課題となっており、今後の学校教育や施設のあり方について検討していく必要がある。
- 小中一貫教育のあり方、地域の特色を生かした教育の充実、多様な時代に多様な学びの場の保障、そして将来を見据えた学校施設のあり方。これ等を踏まえて今後の検討に活かしていく。

8. まとめ

北方町立北学園の取り組みは、学校再編を教育環境の充実に繋げた先進的な事例であり、特に9年間、幼保小中一貫教育とした15年間の教育や地域学習、多様な学びの保障は、本町においても参考となった。
今後、本町においても、子どもたちにとってより良い教育環境とは何かをしっかり考え、将来を見据えた学校教育や施設のあり方について検討していくことが重要であると感じた。

令和8年度　川西町議会　行政視察報告書(2日目)

県外視察研修

提案者名　副議長　齋藤麻由　　所属　川西町議会

視察議員

副議長/齋藤麻由	厚生文教委員長/安達憲太郎
総務建設委員長/福山臣尾	阪本学
	芝和也

1. 視察日時　令和8年10月20日　10：00～12：00

2. 視察先　岐阜県白川町移住交流サポートセンター

3. 視察内容　行政と一般社団法人との連携による移住・空き家活用について

4. 視察目的

人口減少、少子高齢化が進む中、本町においても移住・定住や空き家対策は重要な課題となっている。

5. 調査概要

- 移住相談、地域おこし協力隊との連携、移住体験事業等を行い、実際に移住したときの想像をしやすく様々な取り組みをしている。
- 一般社団法人が移住希望者への相談対応や空き家所有者との調整、地域との橋渡しを担うなど、行政だけでなく民間との連携を重視していた。
- 移住後の地域コミュニティへの参加まで支援している点が特徴的であった。

6. 所見

- 行政と一般社団法人の連携体制がとても参考になった。
- 地域との信頼関係づくりや移住後の継続的な支援が重要であると感じた。
- それぞれの強みを活かした役割分担は、本町においても参考になる取組である。
- 行政では対応が難しい細かな相談や地域との調整を一般社団法人が担うことにより、移住希望者に寄り添った支援体制が実現されていた。

7. 川西町への示唆

- 本町においても移住相談の窓口の充実、空き家バンクの登録に対する所有者への働きかけや、地域団体や民間団体との連携等をはかりながら課題である空き家対策への充実に繋げていく。

8. まとめ

白川町の取り組みは、行政と一般社団法人が連携し、移住相談から地域への定着までを一体的に支援している点が特徴的だった。
本町においても、今回の視察で得た知見を活かし、地域の実情に応じた移住・定住の促進や空き家活用の仕組みづくりに、今後しっかりと取り組んでいきたい。